

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	千葉県立国府台高等学校 市川市国府台2-4-1 電話047-373-2141
テーマ	地域清掃を通して、地域の安全を考える
実施形態 実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・分科会も実施 ・他行事（清掃活動）とのセット
日 時 会 場	平成30年11月22日（木） 15:00～16:50 国府台高等学校 会議室、応接室
日 程 流れ・進行	開かれた学校づくり委員会 15:00～15:15 ミニ集会 15:15～16:50 ①地域清掃 ②グループ協議 全体進行は本校教頭が、またグループ協議進行は、開かれた学校づくり委員会委員（地域住民・PTA会長）が行う。
参加者	教職員 8名（校長含む） 保護者 3名 開かれた学校づくり委員会委員 8名 地域住民 11名 生徒 85名 教育関係者 1名（市立中学校教頭） 合計 116名
広 報	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校づくり委員会委員による地域への声かけ及びPTAへの通知 ・市の清掃部に連絡（ゴミ袋の提供）
内 容	①5コースに分かれての清掃活動。活動を通して、生徒と地域住民との交流を図る。また、生徒は地域の様子にも目を配り、危険箇所・地域の特色・地域との関わり等について考えながら活動を行う。 ②地域清掃終了後、コース毎に「通学路の安全、地域の特色、国府台高校生としての地域との関わり等」についてグループ協議を行う。
保護者や地域 の方々の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部でありながら自然が豊か。この環境を残していきたい。 ・由緒ある土地柄で、自然豊かで、学校が集まり、駅からも近い立地は県内でも稀有。生徒たちには誇りを持ってほしい。 ・学生とのゴミ拾い、学生と話をするのが楽しみ。 ・今日あったことを様々な人に話し、共有してほしい。ボランティア同好会等があればいい。

<p>教職員の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々が清掃中に声をかけてくれたおかげで、生徒たちは気兼ねなく交流することができた。積極的に発言もしており、生徒にとって良い機会であった。 ・行動したことで、新たな発見があった。これを機に色々なことに行動してほしい。
<p>その他 (テーマの背景、 学校の工夫、 今後の取組等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国府台駅からの通学路は歩道が狭く、すれ違いの際には、どちらかの歩行者が車道にはみ出してしまう。このような状態を避けるために、生徒には右側の歩道を利用するよう日々指導しているが、その一方で駅を利用する地域住民の理解も必要である。そのためにも、地域住民の協力は不可欠であり、今後も地域住民との交流を大切にしていきたい。 ・周囲の恵まれた環境を維持するために、また地域の安全を保持するために、生徒には日頃からどのようなことで地域に貢献できるのかを考えさせていきたい。

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	千葉県立富里高等学校 富里市七栄181-1 電話0476-92-1441
テーマ	「これからの富高生に期待すること ～子どもたちを伸ばす言葉かけとは～」
実施形態 実施主体	・全体会及び分科会
日時 会場	平成30年11月15日(木) 14:25～15:50 富里高等学校 会議室
日程 流れ・進行	2限～5限 授業公開 14:25分～ミニ集会 ・全体会 ※進行：教頭 ・分科会 ※参加者を3グループに分けて討議 ※進行：本校職員
参加者	保護者 9名 地域住民 13名（地域住民・地域関係機関） 教職員 11名
広報	・保護者あて文書の発送 ・郵便による案内状の発送 ・学校メールによる案内 ・学校HPによる案内
内容	・開会行事（委員長挨拶・学校長挨拶） ・学校概要説明 ※パワーポイントを使用し、画像・映像による学校紹介 ・分科会 ※参加者を3グループに分けて討議（地域関係者・保護者・開かれた学校づくり委員・本校職員が均等になるようグループ分け） ※司会進行・記録を本校職員が担当 ・まとめ ※各グループ代表（進行担当）が発表 ・閉会行事
保護者や地域 の方々の意見	・落ち着いた学校で優しい生徒が多い。バランスよく富里高校ならではの生徒を育ててほしい。 ・富里高校は、地域に根差している。更に、地域とのかかわりを増やし、地域との関係を深め、地域を愛する生徒を育ててほしい。 ・生徒に考える授業を展開してほしい。 ・「悪いことは、悪い」「ダメな時は、ダメ」とか、生活習慣をしっかりとするような声掛けが大切である。 ・高校生への声掛けは不安であり、難しい。高校生のほうから声掛けがあるとよい。そうするとコミュニケーションが取れてよい。

<p>教職員の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に愛され、信頼される学校づくりをこれからも継続していく。 ・地域との連携の多様化・機会増加への対応をどのようにしていくかが課題である。 ・清掃など本校の伝統的取組を継続していく。
<p>その他 (テーマの背景、 学校の工夫、 今後の取組等)</p>	<p><テーマの背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校開設の経緯と市内唯一の高校で、市内の中学校を卒業した生徒がおよそ4割在籍していることから、地域より多くの期待を寄せられている。そうしたことが、テーマ設定の背景である。 <p><ミニ集会における学校の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議が活発になるよう、「開かれた学校づくり委員」「本校職員」をグループごとに配置している。 ・学校の様子を理解していただくためにパワーポイントを使い映像・画像による学校紹介を行っている。また、学校紹介の記事等を会場に掲示している。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日前投票所設置、子育てサロン、認知症サポート養成講座、小学校や各種市内行事へのボランティア参加等交流を行っており、今後も進めていく。そのために、地域の各組織（市役所・区会・社会福祉協議会など）との連携をより一層深めていく。 ・ミニ集会においては、多様な（いろいろな角度からの）意見を得るために、連携、交流のある組織へ個別で案内を発送し、幅広い参加を目指す。

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	千葉県立君津商業高等学校 富津市岩瀬1172 電話0439-65-1131
テーマ	「地域、家庭、学校が一体となった地域の活性化について」
実施形態 実施主体	・開かれた学校づくり委員会と学校が共催で実施。保護者が参加しやすいように、学科・コース説明会(1年保護者対象)の後に開催
日時 会場	平成30年10月23日(火) 16:00~17:20 君津商業高等学校 会議室
日程 流れ・進行	学科・コース説明会 13:30~15:00 ミニ集会 16:00~17:20 協議を行う前に『地域愛の醸成～「富津市を世界へ」魅力再発見プロジェクト』と題した生徒によるプレゼンテーションを行い、その後、班別協議・全体会(班別協議のファシリテーターは本校教諭、全体会の進行は主幹教諭)
参加者	教職員 9名 富津市役所 6名(市長、教育長、企画課長、秘書広報課長、 商工観光課長、商工観光課副主査) 保護者 5名 小学校教職員1名 地域住民 4名(開かれた学校づくり委員) 計25名
広報	・出席を直接依頼 ・通知文 ・学校のHP ・地域行政区への案内 ・近隣小中学校への案内
内容	・協議を行う前に『地域愛の醸成～「富津市を世界へ」魅力再発見プロジェクト』と題した生徒によるプレゼンテーションを行い、「地域、家庭、学校が一体となった地域の活性化について」協議した。 ・保護者、市役所職員、地域住民をバランス良く分けたグループで討議を行った。
保護者や地域の方々の意見	・市内の企業に勤めてもらえる環境整備が肝要。 ・富津市は、木更津市、袖ヶ浦市、君津市と比べると、イメージ的に明るくないところがある。若い世代にイメージアップを図ることが大切で、生徒が発表したインスタグラムはその一例である。 ・富津市の魅力は自然である。安房地域と連携して、南房総が一体となり自然の豊かさなどを発信していくと良い。 ・市外より通学しているが、生徒のプレゼンで紹介のあった市内のお店を訪れて、子どもとのコミュニケーションを図りたい。

教職員の意見	・行政のトップも参加していただいた今回のミニ集会を契機とし、学校、行政、保護者、地域住民が連携した地域の活性化のための取組を継続・発展させたい。
その他	・今回のミニ集会により、要請を受けて、生徒のプレゼンを、市議会で12月19日に行った。

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	千葉県立長生特別支援学校 長生郡一宮町東浪見6767-7 電話0475-42-2470
テーマ	「共生社会の形成に向けて学校・家庭・地域でできること」 ～4つの視点（2020東京オリンピック・パラリンピック、 就労、療育、防災）から～
実施形態 実施主体	・全体会、基調提案、分科会 ・開かれた学校づくり委員会
日時 会場	平成30年11月7日（水）13:00～14:35 長生特別支援学校 体育館
日程 流れ・進行	ミニ集会 13:00～13:10 開会 13:10～13:55 基調提案 13:55～14:25 意見交換（分科会） 14:25～14:35 まとめ・閉会 ※全体進行：本校職員 分科会進行：開かれた学校づくり委員 開かれた学校づくり委員会 14:45～15:45
参加者	教職員（本校、他校） 13名 保護者 8名 地域住民 4名 行政関係 2名 近隣福祉施設職員 5名 開かれた学校づくり委員 9名 合計41名
広報	・保護者宛て通知 ・学校だよりに掲載 ・地域回覧 ・学校HPに掲載 ・町の広報誌に掲載
内容	1 開会 13:00～13:10 2 基調提案 13:10～13:55 ・オリパラ（一宮町オリンピック推進課職員） ・就労（茂原公共職業安定所職員、障害者就業・生活支援センター長、本校進路指導主事） ・療育（療育支援コーディネーター） ・防災（本校教頭） ・オリパラ授業発表（本校中学部生徒） 3 意見交換 13:55～14:25 ・「オリパラ」「就労」「療育」「防災」の4グループに分かれて実施 4 まとめ・閉会 14:25～14:35 ・各グループから話し合ったことを発表

<p>保護者や地域の方々の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリパラに向けた今後の活動について、みんなで考えることができた。 ・卒業後も様々なことがあるので、相談できる場所を知っておくことが大切である。 ・ライフサポートファイルを使用することで、子どもの支援を共有することができると思う。 ・防災では様々な状況が想定されるので、今回のように地域の人々で話し合いを積み重ねていけると良い。
<p>教職員の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サーフィンやボッチャなどオリパラに向けた活動を通して、地域と共に気運を醸成していきたい。 ・今後も、関係機関と連携しながら卒業後の支援をしていきたい。 ・放課後等デイサービスとの連携は、連絡会議を開いたり、児童生徒の下校時に行ったりしているが、今後も継続していきたい。 ・防災での地域との連携は、現在作成を進めているライフサポートファイルを有効活用できるようにしていきたい。
<p>その他 (テーマの背景、学校の工夫、今後の取組等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が「総合的な学習の時間」でオリパラについて調べたことを発表したことにより、参加者の意識が高まった。 ・保護者、福祉関係者、地域住民、町の行政担当者など幅広い参加者で多様なテーマについて話し合ったことにより、学校と地域の連携体制を構築する契機となった。

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	千葉県立君津特別支援学校 君津市北子安6-14-1 電話0439-55-4333																
テーマ	みんなで考えよう！地域の防災 ～福祉避難所って？～																
実施形態 実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会とグループディスカッション ・本校及びPTA、開かれた学校づくり委員会が主体となり実施 																
日時 会場	平成30年10月15日（月）10:00～12:00 君津市生涯学習交流センター 多目的ホール																
日程 流れ・進行	<ul style="list-style-type: none"> ○取組の報告 行政、福祉施設、学校がそれぞれの取組について報告 ○グループディスカッション全体会 5つのグループに分かれて意見交換 ○まとめ 																
参加者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">教職員</td> <td style="width: 33%;">6名</td> <td style="width: 33%;">行政関係</td> <td style="width: 33%;">4名</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>14名</td> <td>近隣学校職員</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>福祉関係職員</td> <td>20名</td> <td>その他</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="text-align: right;">計 53名</td> </tr> </table>	教職員	6名	行政関係	4名	保護者	14名	近隣学校職員	4名	福祉関係職員	20名	その他	5名				計 53名
教職員	6名	行政関係	4名														
保護者	14名	近隣学校職員	4名														
福祉関係職員	20名	その他	5名														
			計 53名														
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者宛て通知 ・自治会を通して依頼 ・直接依頼 																
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・報告「みんなで考えよう！地域の防災～福祉避難所って？～」 <ul style="list-style-type: none"> ○君津市危機管理課 福祉避難所について 君津市の防災の状況について ○生活介護施設「ピッチャーの丘」施設長 3. 11の経験から災害時に想定されること 施設として進めている災害対策 ○君津特別支援学校 防災担当 防災訓練の取組 PTAのとりくみ ・グループディスカッション 災害時に想定される課題について話し合い ・まとめ 																
保護者や地域の方々の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所は増えてきているものの、開設までの流れや利用の方法など、まだまだ理解されていないことが多い。今後、広く周知されていくとよい。 ・災害に備えて、家庭でも備蓄や転倒防止策など講じていく必要がある。 ・災害時、電源の確保が難しい状況が発生すると、医療的ケアが必要な子どもや二次調理が必要な子どもへの対応が大きな 																

	<p>課題となると予想される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に連絡を取り合うことは難しい。安否の確認方法や避難の仕方など、具体的な取り決めをしておくことが大切ではないか。 ・今後は益々、地域、学校、行政、事業所が日頃から情報を交換、共有しておくことが必要だと感じる。
教職員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所開設のマニュアルを作っていく必要がある。 ・福祉避難所開設のシミュレーションをし、イメージをもつことも大切ではないか。 ・地域や行政、関係機関とはさらに連携して、防災対策を講じていくことが大切である。
その他 (テーマの背景、 学校の工夫、 今後の取組等)	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、平成30年3月に君津市と福祉避難所の締結をし、地域と連携した危機管理体制の構築に力を入れているところである。 ・日頃から本校や福祉避難所に対する理解を推進し、地域との連携を深めることを目指し、学校がある地域の防災研修や避難訓練等にもPTAとともに参加している。 ・本校PTAは、昨年度から防災対策に力を入れており、親子防災研修を実施している。 ・今後は、君津市とさらに連携を図りながら、福祉避難所開設マニュアルの作成や地域への周知を図っていく。